

第 560 回 例 会

25年9月20日

本日のプログラム

- ・ソング 「日も風も星も」 (P10)
- ・卓話 (株) ユー・エス・ジェイ 新田 剛理 氏
「USJの近況について」
- ・場所 ANAクラウンプラザホテル大阪 3階「飛鳥の間」
- ・ガバナー補佐・ガバナー補佐エレクト訪問 クラブ協議会
13:40～ 4階「桃山の間」

次回(9月27日)のプログラム

- ・ソング 「日も風も星も」 (P10)
 - ・卓話 大輪 有加子 会員
「二十四節季七十二候 秋分」
 - ・場所 ANAクラウンプラザホテル大阪 5階「ガーデンルーム」
- ビアガーデンが終了し、例会場は 5階「ガーデンルーム」に戻ります

先週(9月13日)の例会報告

■会長の時間

【人間の世界には、真に煩悶すべきほどのことなどはない】

ギリシアの哲学者プラトン(B.C.427年～347年)のことば。

人間の世界は、人間がつくっているのである。だから、そこから生まれてくるもろもろのものは、人間の知思によって解決できないわけがない。どのようにむずかしい出来事でもかならず、いつかは光明が見出される。命がけで煩悶する事柄などないはずである。ひとりて解決がつかなかったら、ふたりで考えよ。それでもだめだったら時にまかせるとよいだろう。かならず結果がつくと説いている。袋小路のなかに迷い込んで出られず、いつ解決がつくのかと思いついて悩んでいる人びとの多くは、たいてい劣等感の持ち主である。自分ではどうにもならないと信じて、内心であきらめている。どのような錯綜した迷路にもかならず出口はある。どうせやってもできないという気持ちを捨てて、まず歩き出さなければならない。

世の中で、成功者いわれ、尊敬を集めている人の少年時代、あるいは成功する直前までの、世の評価を調べてみるとよい。ほとんどの人が、劣等生といわれ、馬鹿だと蔑まれ、気狂いではないかと笑われている。が、他人からなにをいわれようと、自ら信ずる道をそれこそ馬鹿みたいに歩き続けた人が、最後に栄光の座についている。偉人だって、天才だって、われわれとさしてかわりのない一面をもっているのである。そう思うと心がやすまる。

数学の天才といわれ、世界的な数学者として生涯を終わった岡潔は、小学校、中学校時代には数学が苦手で、入学試験にまで失敗している。数学がなぜできないのだろうと、悩みに悩んでいるのである。劣等感には誰もがもっている。完全な人間などいないのだから当然だろう。

「アキレスの踵」は、どんなにすぐれた人物にもある。もし、どうしてもかなわない、あの人にはいつも負けてしまうという相手がいたら、なんでもよいから、その人のあらさがしを丹念にしてみる。きっと欠点が発見できるはずである。鼻があぐらをかいているとか、手の指が短いとか、案外せっかちで、あわて者だとか、なにかをみつけて、なんだふつうの人間じゃないか、自分のほうが長所をたくさんもっているぞ、と居直ることである。すると自信がわいてくる。

あるいは、いつも気圧され、どうしても堂々とふるまえない相手がいたら、彼も人、我も人と考え、自分と同じ欠点はないかと、やはりさがしてみるとよいだろう。いろいろな共通点がさがし出せるにちがいない。たくさんの共通点があるとわかると、圧迫感はいつの間に消えてしまい、対等な気持ちで接しられるようになる。

【来客紹介】 2名

【出席報告】

25年9月13日(第559回例会)				
会員総数	出席免除会員	出席会員	欠席会員	出席率
32名	2名	23名	7名	76.67%

【幹事報告】

【メールBOXに配布】 1)第3回理事会報告

ニコニコ箱(9月13日)

藤井 宏一(大阪西北RC) =こんにちは。

秋山 千尋 =本日の卓話は東ロータリアンの娘さんとの事、楽しみにしています。

川上 大雄 =まだまだ暑いですね。

河田 英子 =明日からNZに行ってきます。主人と三男はイギリス、次男はハネムーンでタヒチ、私は国際会議と視察です。

菊 泰仁 =SAA 忘れていました。

中根三恵子 =今晚から東京出張です。 ついでに東京観光ハトバスツアーに参加して来ます。

乾 恵美子 =先日のゴング引渡し式には、大変お世話になり皆様に本当に良く接して頂き、感謝申し上げます。

真剣に入会を検討させて頂きましたが、他クラブの役員を引き受けた関係で、今しばらく入会を見合わせさせて頂きます。本当に有難うございました。

森本 良嗣 =藤井様 お久しぶりでございます。いつもお気遣いを頂きありがとうございます。ようこそお越し下さいました。

東 裕子 様 お父様に代わって、今日はがんばって下さい。

斧原 邦夫 =先週は本当に久しぶりの卓話をさせて頂きました。皆様の眼差しが嬉しく、お陰様です。

今日は東会員のゲストスピーカーはお嬢さんとの由、楽しみにして居ります！

大屋 準一 =2020年東京オリンピック開催が決定しました。誠にお目出たく関係者の方々に感謝です。

開会式に参加できるように長生きします。

吉田 正信 =2020オリンピック、東京開催おめでとう！ これを機に新しい日本の発進を期待します。

【SAA報告】	ニコニコ箱	本日計 21000円	今年度合計 3358522円
---------	-------	------------	----------------

卓話(9月13日)

「若者が本気出して考えてみた」 SNSと若者と「ハリネズミのジレンマ」 ゲストスピーカー 東 裕子さん（東健三会員ご紹介）

まずSNSとは、Social network service(ソーシャル・ネットワーク・サービス)のことを指し、ツイッター(twitter)、フェイスブック(facebook)などが有名である。これらはインターネット上で知人や友人と交流を行ったり情報を収集したりするためのサービスである。これらのサービスを主に使っているのは若者である。「孤独を紛らわす、情報収集、みんながやっているから」など様々な動機でSNSは利用されている。若者のコミュニケーションにおいてSNSは重要な役割を果たしていることも多い。

ここでSNSの普及の背景に存在する心理について考えてみたい。19世紀のドイツの哲学者ショーペンハウエルの随想録におさめられた有名な寓話に「ヤマアラシのジレンマ」というものがある。日本では「ハリネズミのジレンマ」という形で用いられることも多い言葉である。“全身にトゲを持つヤマアラシ同士が親密になろうとするのだが、好きだからとくっつきすぎると、相手も自分も傷ついてしまう、反対に相手を傷つけまいと離れると、相手も自分も寂しくなってしまう。ヤマアラシは傷つけ合いながらも最終的には最適な互いの最適な距離を見つける。”

このジレンマの寓話は人間関係にもあてはめられ、お互いに近づきすぎると傷つき傷つけてしまい関係が悪化する。かといって距離をとると疎遠になり、親密な関係が築けない。人にはそれぞれの最適な距離感があるということを示唆している。

現実世界で人間関係を築くことは、互いに傷つき傷つけることによる苦痛を伴う。対してインターネット上でのコミュニケーションは、互いの距離を制御しやすいために傷つけあうことが少なく、よって若者により好まれているという側面が指摘できるのではないだろうか。確かに相手との最適な距離を見つけることは困難に時に痛みを伴うものであるが、その困難を乗り越えることによって精神的に成長することもできるというものである。インターネットを有効活用しながらも現実と向き合うことを忘れないことが重要だと感じる今日この頃である。



大阪ユニバーサルシティRC URL: <http://www.osaka-ucrc.org/> E-mai: ucrc@osaka-ucrc.org 創立: 2001年3月27日

事務局 〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-68 リーガロイヤルホテル401号室 TEL: 070-5020-6459

会長: 斎藤清貴 幹事: 三宅一郎 会報担当: 大橋高志 例会: 毎週 月曜日 12:30~13:30 リーガロイヤルホテル

4つのテスト / 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか